

No. 1

初版 2014.05.12

改訂

ユーザーマニュアル



JET VEC
100, 150,



1. 安全に関して

この取り扱い説明書は、お使いになる方がいつでも見ることのできる場所に大切に保管してください。

以下は安全に関する重要な内容です。よくお読みの上、必ずお守りください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使い戴き、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。誤った取り扱いをした時に死亡や重大な事故に結びつく可能性が大きいものを  警告 状況によって重大な結果に結びつく可能性のあるものを  注意 記載しております。いずれも安全に関する重要な内容を記載しておりますので必ずお守り下さい。

* 絵表示

絵表示の意味は次の通りです。



一般的な禁止事項



必ず守っていただく事項





機械に接続する配線は確実に接続して下さい。

機械に接続する配線は確実に接続し、配線接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定して下さい。接続や固定が不完全な場合、発熱・火災の原因となります。



アース工事を行って下さい。

電気工事業者による第3種設置工事を必ず実施して下さい。アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないで下さい。アースが不完全な場合、感電及び機械誤作動の原因となります。



電源は専用コンセントを使用して下さい。

電源コードは、途中で接続したり延長したり、たこ足配線をしないで下さい。機械から半径2m以内床より1m以上の位置にコンセント(できればツイスト、さもなければハイプロスイッチ)を取り付けて下さい。



電源コードを傷つけたりしないで下さい。

電源コードを切ったり、加工したり、引っ張ったり、束ねたりしないで下さい。また、重いものを乗せたり、挟み込んだりすると電源コードが切断され、ショートして感電・火災の原因となります。

使用上の注意



安全装置の設定は変更しないで下さい。

オーバーロードの設定、及び固さ調整をむやみに変えると、モーターやコンプレッサーの焼損、起動不良の原因となります。



漏電遮断器が作動した場合には、カルピジャーニ・ジャパン、または販売店へご相談下さい。

無理な電源復帰を行うと、感電・火災の原因となります。



機械に直接水をかけて洗浄やすすぎをしないで下さい。

ショートや漏電ブレーカーが作動する等の原因となります。

電源プラグの差し込みは確実に行って下さい。

電源プラグは、ほこりが付着していないか定期的に確認し、ガタのないように、刃の根本まで確実に差し込んで下さい。ほこりが付着したり、接続が不完全な場合、感電・火災の原因となります。



漏電遮断器は、定期的に動作確認して下さい。漏電遮断器が正常作動しないまま使用しますと、漏電時に作動せず、感電の原因となることがあります。



電源プラグを抜く時は、先端のプラグを持って行って下さい。コードを引っ張って抜くと、コードの一部が断線され、発熱・発火の原因となることがあります。



長時間ご使用にならない場合は、安全の為、電源プラグをコンセントから抜いて下さい。ほこりが溜まり、発熱・発火の原因となることがあります。



原料投入については、器具類、及び原料パックの洗浄殺菌には充分心掛けて下さい。



原料投入量の最低最大表示が、取り扱いマニュアルの中にしてあります。必ずお守り下さい。



アラーム表示、またはチェックランプが点滅している場合には、“P”のボタンを押し、アラーム内容(またはNo.)を確認し、STOP/RESETボタンを押して下さい。それでも復帰しない場合には、販売店へご連絡下さい。

電気工事



指定容量の漏電遮断器を取り付けて下さい。

電気工事業者へご依頼下さい。

機械には、単独の指定容量の漏電遮断器が取り付けられていませんと、感電・火災の原因となります。

据え付け工事



機械の運搬は、転倒しないように慎重に行って下さい。



防護: 事故につながる恐れがある為、防護具をご使用下さい。



機器の接続: 全ての電気接続を確実に行って下さい。

注意: アースは必ず、規則に則った工事を行なって下さい。



警告

機械設置は、弊社にて指定した適切な電気設備の下で行なって下さい。又、配線器具や電源ブレーカー等は国内の基準に則ったものを設備して下さい。



機械運転時、及び洗浄時等、決してタンク内に手を入れないで下さい。重大な受傷事故につながる危険があります。機械内の部品を取り外したり、装着する場合等、機械内部にアクセスする前に、スイッチを停止(STOP)に入れた上、機械電源を切って下さい。

高圧の水による機械洗浄は行わないで下さい。

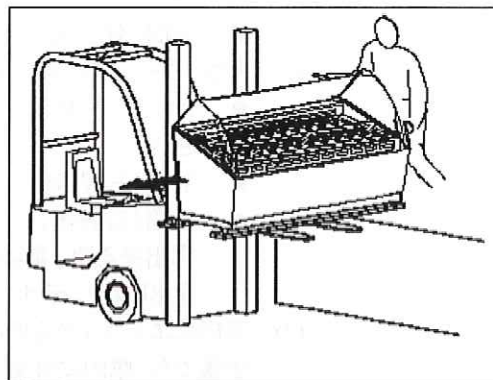
機械電源が入った状態でパネルを取り外す事は禁止事項です。

本マニュアル及び機械ステッカーに従わない事により発生した如何なるアクシデントに対し、当社は一切その責に任じません。

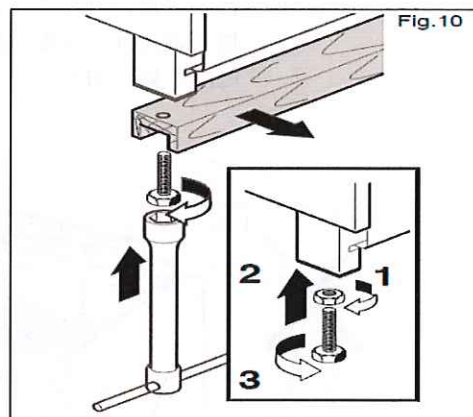
3. 設置

1) 移動

- ① 機械移動時は、下図の通り、保護用木材ごとパレットから取り外して下さい。
- ② 機械を移動する場合、ガラス及び上部蛍光灯部分には絶対に力を加えないようご注意ください。
- ③ フォークリフト、台車等で運搬する場合、つめ全長 1m 以上の器材にて、保護材の部分で機械荷重を受けるようにして下さい。
- ④ 保護材以外の部分で機械の荷重を受けると、機械内部が破損する恐れがありますのでご注意ください。



- ⑤ 保護用木材は、機械下部からボルトにて固定されています。
- ⑥ 機械を安定した状態にして、下からボルトを取り外して下さい。
- ⑦ 不安定な場所や、十分な耐荷重の無い台には乗せないようにして下さい。
- ⑧ 一旦設置場所に機械を置いた後、絶対にガラス及び上部蛍光灯部分に力や衝撃を加えないで下さい。
- ⑨ 機械移動時、床に機械を置いた状態で無理に滑らせると、床や機械が破損する場合がありますのでご注意ください。



2) 据付

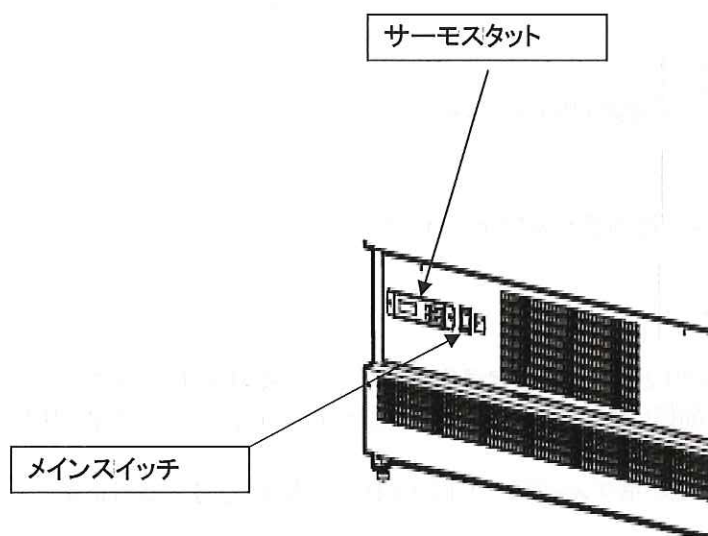
- ① 水平で安定した場所に設置して下さい。
- ② 機械の荷重に耐えられる場所に設置して下さい。
- ③ 右図の通り、機械上部にて水平レベルを調整して下さい。水平でない場合、霜取りの際のドレインがうまく排出されない場合があります。水平になるよう、機械下に板等のスペーサーを挿入して下さい。

3) 設置条件

- ① 機械周囲のスペースは、通気及びメンテナンスの為、下記の通り確保して下さい。

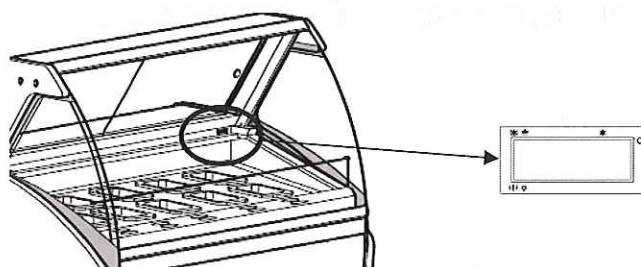
4. 操作スイッチ

- 1) メインスイッチ(主電源スイッチ)
 - ① 機械後面(店員側)にメインスイッチがあります。
 - ② ポジション "0"で OFF、"1"で ON
- 2) サーモスタット
 - ① 機械後面(店員側)にサーモスタットがあります。
 - ② 詳細は次ページをご参照下さい。

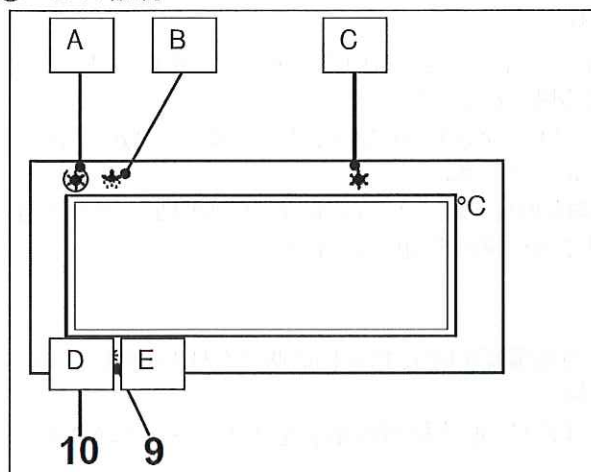


3) 庫内温度ディスプレイ

- ① 機械正面(店員側)に庫内温度ディスプレイあります。
- ② 庫内の温度を表示いたします。

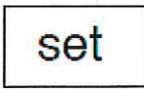


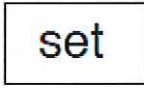


② LED 説明

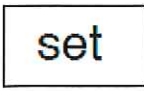


記号	点灯 / 点滅	説明
A	点灯	庫内ファン運転
B	点灯	自動霜取り運転中
	点滅	手動霜取り運転中
C	点灯	コンプレッサー運転中
	点滅	コンプレッサー作動遅延(待機中)又は作動ロック中
D	点灯	フィルターサイン
	点滅	フィルターサイン(電源 OFF=>ON にてリセット)
E	点灯	庫内燈点灯

4) 冷却温度設定

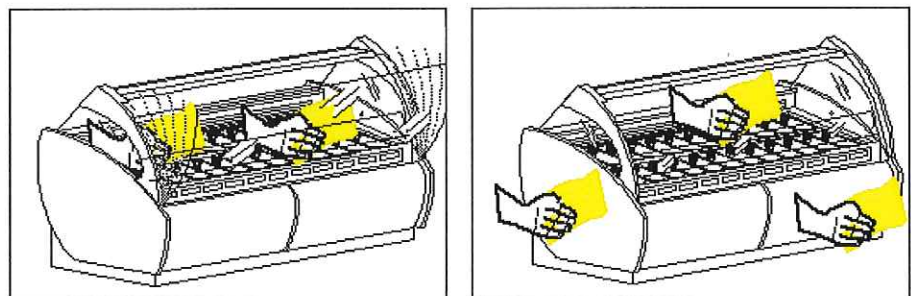
- ①  セットボタンを 2 秒間押す
- ②  アップ  ダウンスイッチで温度設定(①から 3 秒以内)
- ③ 10 秒間何も押さない、又は  セットボタンを押して設定終了

5) 設定温度確認

- ①  セットボタンを押す
- ② 10 秒間何も押さない、又は セットボタンを押してせってい確認終了

3) 内外部清掃

- ⑤ 営業終了後、庫内を空にして、ぬるま湯で希釈した中性洗剤を染みこませたタオルで機械内、外部の拭き掃除を行なって下さい。(ウールや、表面の固い材質のタオルは使用しないで下さい。)
- ⑥ 酸性や塩素系、アンモニア系の殺菌剤、洗剤は使用しないで下さい。
- ⑦ 絶対に、水や洗剤を直接機械にかけないよう、ご注意下さい。漏電事故につながる可能性があります。
- ⑧ 冷気の吹き出し口、吸い込み口周辺の汚れは、先の尖った器具を使わず、蒸発器を傷つけないよう十分に注意して清掃して下さい。
- ⑨ 庫内燈カバーや、店員側のスライドドアにアルコールを噴霧しないで下さい。



- ⑩ フロントガラスの開閉は、必ず最後まで両手を添えて、無理な力をかけないよう、ゆっくり行なって下さい。(開閉は、必要な時以外は行わないで下さい。)
- ⑪ フロントガラスの開閉途中では絶対手をはなさないで下さい。
- ⑫ ガラスを清掃する際は、手をガラスに添え、一方から強く押さないようにして下さい。(フロントガラスは2人で清掃して下さい)

4) ド레인ボックスの清掃

- ③ 毎朝、機械下の排水ド레인ボックス内の水を捨てて下さい。
- ④ ド레인ボックスに排水が出てこない場合、ド레인ホースの詰まりが考えられます。庫内の店員側及びお客様側蒸発器の下にあるド레인口からド레인パンまでの間で詰まりが無い確認して下さい。

5) ガラスの取り扱いについて

- ① ガラスに無理な力をかけたり、衝撃を与えないようご注意下さい。
- ② ガラスによりかかったり、重いものを乗せないで下さい。
- ③ フロントガラスの開閉は、必ず両手を添えて、無理な力をかけないよう、ゆっくり行なって下さい。(開閉は、必要な時以外は行わないで下さい。)
- ④ フロントガラスの開閉途中では絶対手をはなさないで下さい。
- ⑤ ガラスに傷や異常が見られた時は、速やかに販売代理店或いは弊社にご連絡下さい。

5) トラブルシューティング

下記表に基づいて、調べて頂いても改善しない場合、弊社コールセンターにお問い合わせ下さい。

1) 対応リスト

こんな時	原因	対策	参照
機械が動かない。 (ディスプレイが表示しない)	ブレーカーが落ちていませんか？	ブレーカー作動の原因を明確にする必要があります。再度作動する場合は、技術員による点検が必要です。	
	電源プラグが抜けていませんか？	しっかりと差し込んで下さい。	
機械が動かない。 (ディスプレイは表示する)	冷却温度設定不良	サーモスタットの温度設定の確認を行なって下さい。	P14
コンプレッサーが少し動いたら停止する。	フィルター汚れ	清掃実施 毎週、定期的に清掃指導	P15
	電源コンセントが抜けかけていませんか？	電源コンセントを差し込み直して下さい。	
	センサーが誤作動。(表示温度が著しく変動する、等)	庫内温度センサー(P1)不良	
	高、低圧スイッチ作動 サーマル作動	凝縮不良(高圧スイッチ) (10、25 ページ参照) 庫内ファン不作動、多量の霜、ガス漏れ(低圧スイッチ)	
ディスプレイにアラームメッセージ	P1 ⇒温度センサー(店員側)の異常を感知しています。 P2 ⇒温度センサー(お客様側)の異常を感知しています。	センサー交換	P19
気が付いたら温度が上昇した。	ショーケース内に外気が吹き込んでいませんか？	空調の風向を調整して下さい。	P11
	4 時間に 1 回の自動霜取りが作動していませんか？	ディスプレイの霜取りランプを確認。通常 10 分以内で終了し、冷却を再開する。 霜取り中は、庫内温度が 10℃以上に上昇するが、正常。 霜取りを手動でキャンセルさせると、着霜により冷却不良の危険あり。	P14

こんな時	原因	対策	参照
冷えが悪い箇所がある。	ショーケース内に外気が吹き込んでいませんか？	空調の風向を調整して下さい。	P11
	毎週1回、機械を停めて、完全に霜取り行なっていますか？ (冷却器への霜付き)	ショーケース内の霜を完全に溶かす為に、最低週に1回、一晚機械を停止させて下さい。夏場等、条件によっては停止させる回数を増やしてください。	P15
	ショーケース内冷気循環用ファンが止まっている	着霜によりファンが接触、停止している ファン不良	
	温度センサーの不具合。	霜取りセンサー(P2)不良⇒ 庫内ファン不作動⇒ 冷気循環不良	
ガラスが曇る。	ショーケース内に外気が吹き込んでいませんか？	空調の風向を調整して下さい。	P15
	ヒーターが断線している可能性があります。	ヒーターへの電圧、電流計測 各ガラスへの配線断線確認(コネクター)	
フロントガラス開閉時、音がする、動きがおかしい	ガラスのヒンジ部分に異常がある可能性があります。	絶対、開閉を行なわないで下さい。 技術員に点検が必要です。	
LED が点灯しない。	LED が切れていませんか？	交換が必要です。	P13
異常な音がする。	電源コンセント接触不良		
	庫内ファンが接触		

2) アラームメッセージ

表示	説明	備考
“P1”	冷却温度センサー(P1センサー)アラーム	
“P2”	霜取りセンサー(P2センサー)アラーム	
“HA”	最高温度アラーム	通常表示しない 表示時はセンサー不良可能性大
“LA”	最低温度アラーム	
“EAL”	未使用	
“BAL”	未使用	